



Mother to Mother SHIONOGI Project ケニア母子支援活動の進捗についての報告

塩野義製薬株式会社





オープニング

塩野義製薬株式会社 ヘルスケア戦略本部
CSR推進部長 田中 裕幸

シオノギグローバルヘルスアクセスポリシー

アンメットメディカルニーズを満たす革新的な治療法を開発する

医薬品の適正使用を促進する

医薬品が必要な患者様にとって入手しやすい環境を整備する

ヘルスケアシステムを強化する

持続可能な社会の実現とシオノギの成長を支える重要課題

□ AMR^{*1} 治療への貢献

低所得国での薬剤耐性感染症治療のための抗菌薬へのアクセス改善
(GARDP^{*2}・CHAI^{*3}との連携)

□ アフリカでの母子保健支援

『Mother to Mother』の起源



子どものために治療を頑張るケニアのお母さんを助けたい
いずれは、製薬企業としてアフリカに薬を届けていきたい
—PJ発案者 土田 愛（海外事業本部）

ケニアで治療を待つお母さんたち

Mother to Mother SHIONOGI Project コンセプト

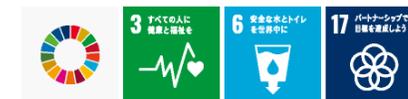


日本からアフリカへ、ママがつなげる元気のバトン
～ママの“ストーリー”を次のママへ～

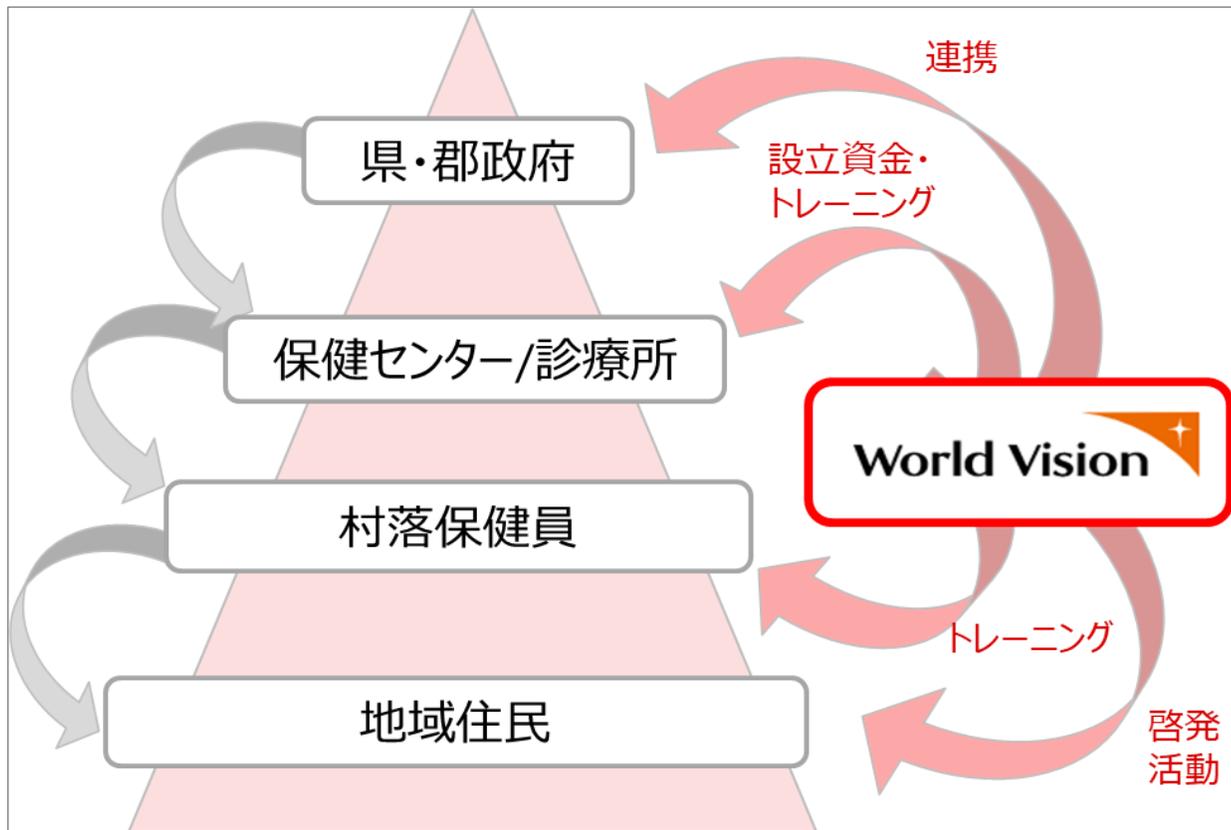


妊産婦・新生児・乳幼児の
健康をサポート

“Mother to Mother”は、
社会の持続的な繁栄の基盤となる“子ども”の健康を願い、
お母さんと子どもたちを応援します。



お母さんと子どもたちの健康管理を**自立的かつ持続的**に行えるコミュニティの実現

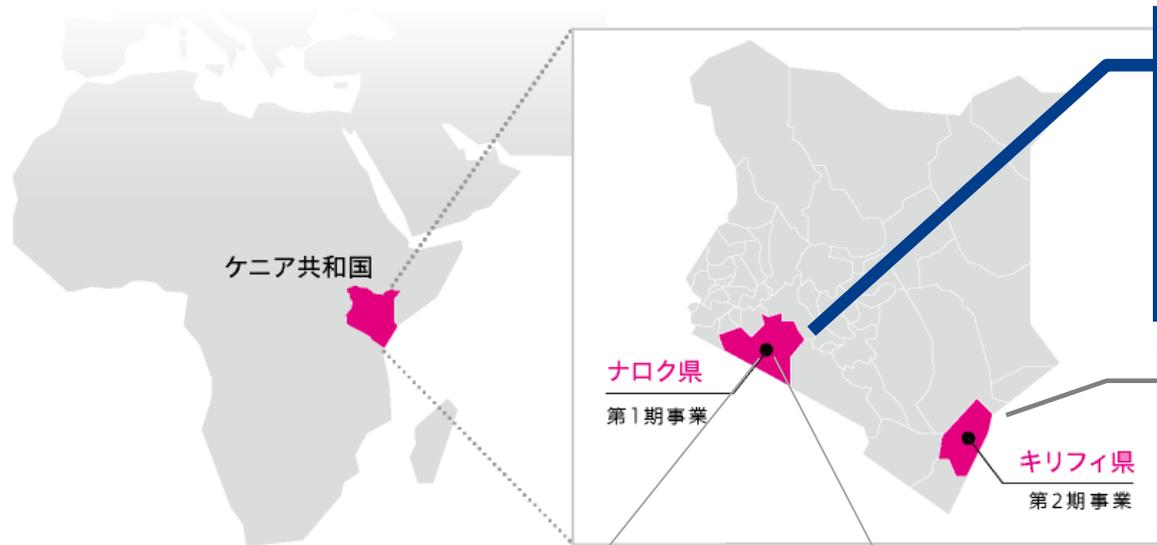


医療インフラを整備するだけでなく、支援撤退後も医療が継続できるように、地域保健員、各組織の機能、連携を強めるよう働きかけ、自立を支援する



ワールド・ビジョン・ケニア
キリフィ県スタッフの方々

2つの事業とナロク県イララマタク地域



第1期事業 ナロク県
2015年10月～2021年7月
(COVID-19により期間延長)

第2期事業 キリフィ県
2020年4月～2023年3月

ナロク県オスプコ郡
Osupuko Division, Narok County

面積 : 1891.5 km²
(大阪府とほぼ同じ大きさ)

遊牧民のマサイ族が住む地域

首都ナイロビから車で約4～5時間



イララマタク地域の母子保健課題

- 自宅出産の習慣
- 病院の数、サービスの量・質の不足
- ジェンダー不平等 (保健サービスを利用するかどうか決めるのは女性ではなく男性であることが多い)
- 清潔な水が入手しにくく、下痢発生率が高い
- 栄養不良による発育障害率が高い

2021年7月に診療所を県政府へ引き渡し完了





プロジェクト活動を通じた学び

塩野義製薬株式会社 ヘルスケア戦略本部
CSR推進部 谷 由香利

“知らないことを知る”



医療サービスを受けた
お母さんたちの声



現地を知ることの重要性





クロージング

塩野義製薬株式会社 取締役副社長
ヘルスケア戦略本部長 澤田 拓子



地域の自立に向けた 新たなフェーズへ



第1期：母子保健支援開始
アカデミアによる評価と事業改善



第2期：点から面へ
地域包括的な支援



今後：他分野の企業との連携
子どもの下痢症低減

診療所の電化による出産環境の改善



第2期事業：ケニア キリフィ県 リマ・ラ・ペラ診療所



Panasonic



設備建設中

- 夜間診療、夜間の施設出産
- 冷蔵庫でのワクチン保存
- 医療機器の安定的使用
- サービスに対する住民の期待向上

社員へのエンゲージメント



World Vision



M2Mアンバサダー



ワールド・ビジョン・ジャパンとワールド・ビジョン・ケニアによる社内講演会
ケニアで活動されている方の生のニーズを社員が知る機会

アフリカで教育アプリを提供しているITベンチャー社長との座談会

診療所引き渡しセレモニーを中継



社員の関与 ⇒ グローバルヘルスについてより考える

シオノギグローバルヘルスアクセスポリシー

アンメットメディカルニーズを満たす革新的な治療法を開発する

医薬品の適正使用を促進する

医薬品が必要な患者様にとって入手しやすい環境を整備する

ヘルスケアシステムを強化する

持続可能な社会の実現とシオノギの成長を支える重要課題

□ AMR^{*1} 治療への貢献

低所得国での薬剤耐性感染症治療のための抗菌薬へのアクセス改善
(GARDP^{*2}・CHAI^{*3}との連携)

□ アフリカでの母子保健支援

EOF